

## 拙訳『「競争」は社会の役に立つのか』についての質問と回答

嶋津 格

以下、2020年9月16日の登尾章さんへの email より

●以下が嶋津の回答です。

\*\*\*\*\*

登尾さん、拙訳についてのコメントありがとうございました。

ずいぶん遅くなりましたが、ご指摘いただいた各部分を検討しました。

p.67L10、L13：競走（67頁、上から10行目と13行目、以下同様）

●これについては、訳していた時のことを覚えていませんが、競争と競走を使い分けていたかもしれません。

その場合には、競走はみんなが同じゴールをめざして同じコース上を走り、先にテープを切った者が勝者になって他は敗者になる、という意味の競走です。しかし競争は、放射的な進化過程なので、生き残ればよいわけですから、他の参加者とは異なる方向に走り始めてもよいわけですね。生き残れる者が一人という制限はないので、自分の新たなニッチを探したり、途中でイノベーションをして走り始めた時とは異なるレースになったり……。当該の箇所は、そのように区別していると思って読もうと思えば読めるように思いました。

p.79L13：人現像 ●「人間像」のまちがいです（それと気づくのに時間がかかりました。はは！）。

p.114L15：国民総生産

↑nationalではなくdomesticなら、「国内総生産」が定訳のようです。

●ご指摘のとおりです。調べて見たら、国民総生産（Gross National Product=GNP）という用語は現在は使わない、とありました。国民総収入、というものはあるようです。これだと日本の企業が海外で稼いだ金額も含まれます。国内総生産は、その種のものを除くために「国内」にするみたいです。この本全体で「国民総生産」は5カ所に出てくるので、改版の機会があれば、全部訂正したいと思います。

p.103 脚注：シュワルツネッカー

↑本文中ではシュワルツェネッカー

●永田さんが注をつけた時に発生したミスです。本文に合わせます（注は、永田、嶋津、リュトゲがそれぞれ付けているので……）。

164L15：「競争がルール抜きに席卷する事があってならない」

↑あつてはならない、かと

●これは日本語の感覚の問題かと。この文章の後に「のは当然・・・」と続くので、できるだけ「は」は一文で一つにしたいため、「あつてならないのは当然・・・」でよいように私は感じます。

185L6：アピアは『倫理実験』「自然は我々の[.....]

↑』と「の間に“で”等が要るかと ●ご指摘どおりです。

意味が分からなかったのは、次の一点です。

157L15：[.....]過激派、特に極右の諸政党でさえ、ドイツにおいて、持続的に議会で定着することができない。

これについては、5%ハードルと関係なく過激だから定着できないのではないかと、思っています。

「さえ」という事は、5%ハードルが撤廃されて議会で定着すべきもっとすごい政党がある、という意味でしょうか。

この点について教えていただけるとありがたいです。

●訳としては原文通りに訳しているだけですが、私の解釈としては以下の通りです。リュトゲさんは、現在の政治の問題は、みんなが白けていて、政治に熱意がないことだと考えている。

その点、極端な立場は左右のいずれでも、その支持者の数は少なくとも熱烈な支持を受けることが多いので、ハードルを下げれば、そのような熱烈で過激な改革案なども国会に登場することになる。そうすると、これに反対する常識的な層も、反対論に熱が入ることになり、全体が活性化する。といった議論のように思います。

実際には現在 AfD（ドイツのための代替案）という右翼的な政党への支持が伸びていて国会にも議員がいます。

以上、取り急ぎです。

必要な箇所を改訂できるほど本が売れるいいのですが。改訂版でなくとも刷が新しくなる時でも簡単な訂正はできるのかと思います。

嶋津 格